

アホっ子エルフを拾ったんだが

ク  
ア  
ト  
□

## ■作品概要

△サークル▽

癒し庵もち猫（シナリオ／効果音／音声編集…クアトロ）

△ジャンル／年齢指定▽

バイノーラル音声作品／全年齢

△作品ボリューム▽

90m 台詞文字数14,202文字

△舞台▽

現代／街中、聴き手の部屋／聴き手の職場

## ■登場人物

△ヒロイン▽

名前 …ステラ（33歳／見た目は十代後半）一人称…ステラ

人物 …人間界で行き倒れた女性エルフ／身長15センチ

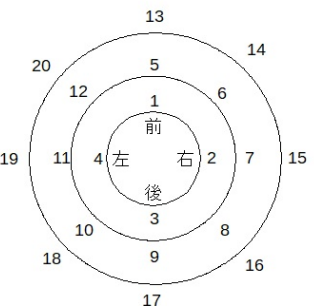
ダウナーで天然／アホの子

弓術と風の精霊術だけは得意／他は何をやらせてもダメ

趣味／特技…食べる事／狩猟

△聴き手▽

社会人 …会社からの帰路でステラを見つけ拾う



△台詞位置の指定図▽

図はマイクとの距離を示しています  
1〜4は10cm  
5〜12は30cm  
13〜20は1mを想定しています  
距離が取れない場合、  
こちらの音量調整等に対応します

1…助けて…。(夜／街中／聴き手の帰路) 1,317文字

(虫の鳴き声)

(聴き手の足音)

(位置15／有声音／消え入りそうな小声)

誰か、助けて。

おい、誰か。

優しい人間さ〜ん、居ない？

(聴き手が四方を確認する)

(位置16／有声音／消え入りそうな小声)

お？

もしかして…、その人間さん…、ステラに興味あり？

こっちだよ、ココ、ココ。

(位置13／有声音／消え入りそうな小声)

あ…、そうそう…。

そのまま真っ直ぐだよ。

(聴き手がステラに近付く足音)

(位置5／有声音／小声)

ふぎゃっ！

踏んでるっ、ステラのおてて、踏んでるっ！

(聴き手が後ずさる足音)

(位置5／有声音／小声)

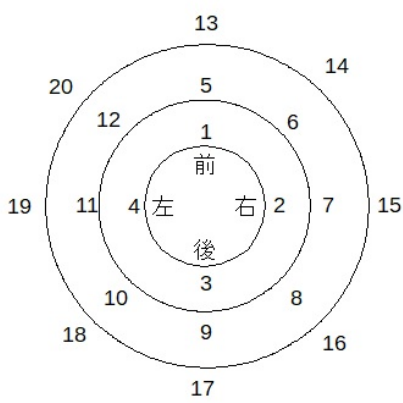
人間さん、酷い…。

ステラの可愛いおてて、痛かった…。

はあ…、そう言われてみれば、暗くて見えないってのも分かる。

え？

ここだなに…。



ああ…、やっぱり気になるよね…。

えっとね、ステラはステラだよ。

エルフの世界から来たんだよ。

ん？

なんなん？

そんな不思議そうな顔して。

あ、そっか。

ステラが可愛いから、見惚（みほ）れちゃった、とか？

え、違う？

えっと、ステラ、可愛いよね？

だよね。

可愛いは人間界でも通じるっぽい。

把握。

話、続けるね。

えっとね、ステラはステラだよ。

ん？

もう聞いた？

マジ？

そうなんだ。

え…っと、どこまで話したっけ？

あゝ、そこね。

うん。

分かってたよ、うんうん…。

はあ？

分ってましたゝ。

嘘じゃありませんゝ。

ふんっ、まったくもう…。  
で。

人間界へ来たのはいいけど、お腹空いちちゃって…。  
それで倒れて、咄嗟にね、ココに隠れた。

そこでしまった、って思った。

人間さんたちは普通、他人が困っても無視する生き物だって、忘れてた。  
え？

そうでもない？

そうなの？

へえ、そうなんだ。

まあそう思ってたからさ、絶望した。

でね、わずかな望みに賭ける事にした。

もしかしたら、ステラを助けてくれる、優しい人間さんが居るかもって…。

必死に声を出し続けた。

もう駄目かって思ったよ。

諦めかけたら、人間さん、あなたが助けてくれた。

まさに、救世主。

え？

助けるとは…、言っていない？

マジか…。

(息を吸う音) すう…。

え…と…、冗談だよね？

エルフだよ？

困ってるんだよ？

お腹ぺこぺこのぺこなんだよ？

ん？

最後に食事したの？

えーっとね、今日のお昼…？

もうそれからずっと、なにも食べてないんだ。

へ？

人間さんも？

えっ！

じゃあ人間さんも、空腹で倒れそうって事っ！？

あ、そうでもないんだ。

そうなんだ…。

あつ、そっか！

これからお夕飯で、ステラも誘ってくれる。

違う？

あ、そう。

違うんだ、へえ…。

ん…。

あ、いいの？

助けてくれないなら、大声で叫ぶよ？

変態だ…って。

へ？

ほかの人間さんは、無関心？

あつ…、つつ…。

(息を吸う音) すう…。

べ、別に忘れてないし？

そ、そう。

し、知ってたし？

あったり前でしょ？

でも流石に叫んだら、助けてくれるでしょ。

まあしないんだけど。

(照れくさそうに)

んん…。

でさ…、人間さん…、そんな気の利くステラを…、助けて欲しい…。  
もう動く事もままならない…。

一生のお願い…。

お夕飯を…、ご馳走してくれるだけでも…、いいから…。

(ここまで)

え？

い、いいの？

マ？

それ…、マ？

よかった…。

人間さん、ありがとう。

命の恩人だよ…。

じゃあ早速、背中、こっちに向けて。  
なんでって、さっき言ったでしょ？

ステラは、もう動けないんだって。

だから、おんぶしていつて。

えゝ、って。

じゃあどうやって運ぶの？

でしょ？

ほかに思いつかない。  
と言う訳で、お願い。

(ステラをおんぶする音)

(位置2／有声音／小声)

おゝ、人間さんの背中…、あったかい…。  
疲れ切ったステラには…、ちようどいい…。

あゝ、これ…。

寝ちやうかも…。

つてか寝ちやうわ…。

お食事の用意が出来たら…、起こして…、すや…。

(聴き手の足音)

2…助かった…。(夜／聴き手の部屋) 1,199文字

(カップラーメンを食べた後)

(位置13／有声音／やや小声)

つぶはあ。

生き返ったゝ。

へ？

手を合わせるの？

さつきみたいに？

あい。

「ご馳走様でした」。

ほう、これも人間さんの作法かゝ。

え？

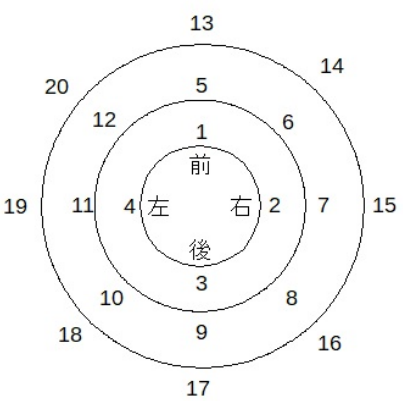
あ、うん。

すつごく美味しかったっ！

この、「カップラーメン」？

とやらを2つも食べてしまったあ。

人間さん、ありがとう。





ステラはとても感謝してる。

この恩は忘れない。

あ、そうだ、人間さん。

なにかして欲しい事はない？

救ってくれたお礼をしたい。

ほら、言ってみて。

え？

特にない？

ふゝむ…。

それだとステラの気が済まない。

困ったな…。

あ、いい事を思い付いた。

人間さん、エルフ族に伝わる、お耳のお手入れに興味ない？

疲れた心と身体に、とても、効く。

どう？

うん、決まり♪

じゃあ早速、こっちへ来て。

そんでもって、ステラの膝に頭を乗せて。

(ステラに近づく足音)

(位置「」／有声音／かなり小声)

まずは両耳を拭くから、仰向けに。

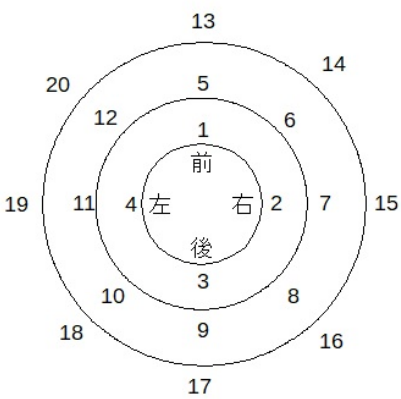
(ステラの膝に頭を乗せる音)

(位置「」／有声音／かなり小声)

そうそう。

それでいい。

じゃあ始める。



先ずは清潔な布に、精油（せいゆ）を含ませる。

そしたらこれで、お耳を拭いていく。

ちよっとヒンヤリするかも。

我慢して。

（耳を拭く音）

どう？

でしょ。

とてもいい香り。

これをするために、清潔な布はいつも持ち歩いてる。

精油もそう。

エルフにとって、お耳は敏感な部分。

いつでもお手入れできる様、カバンに入れてる。

ん？

この精油？

これは幾つかのハーブを調合して、エルフ族伝統の製法で抽出してる。そ。

作り方はナイシヨ。

この精油は、緊張をほぐす効果と、殺菌効果、血行促進効果が期待出来る。つまり、すんごいヤツって事。

ね？

すんごいでしょ？

（自慢気に）ふふんっ♪

反対のお耳もする。

（徐々に声を大きく／ウザい演技）

じしよーじしよー…。

じしよーじしよーじしよー…。

あ、こじょこじょ…。

あゝ、こじょこじょこじょ…。

(こじょまで)

へ？

うるさい？

えゝ、せっかくノって来たのに。

だって、人間さん、とても気持ちよさそうな顔してるから。

ついステラも気分がよくなっちゃって。

うん、分かった。

静かにやる。

…。

…。

んん…。

つぶはっ！

ねえ、息しないと、ステラ死んじやう。

え？

そうじゃない？

そうなんだ。

じゃあ、息はする。

(鼻息荒く) ふんっ、すゝ、ふんっ、すゝ、ふんっ、すゝ、ふんっ、すゝ、ふんっ、すゝ。

なに？

ワザと？

えつと…、なにが？

もゝ、せっかくのくつろぎ時(どき)なの。

だから、ふざけないで。

いい？

うん、分かれればいい。

（しばらく耳を拭く音）

人間さんのお耳ってさ、小さくて可愛いよね。

エルフのお耳はほら、とんがってて大きい。

え？

それがいい？

この形が？

へえ、そうなんだ。

エルフのお耳ってね、大きいだけじゃないんだ。

よく聞こえるの。

例えば…、森の中の物音とか、遠くの話し声とか。

ああ、確かに。

聞きたくない事まで聞こえちゃうってのは、正直ある。

人間さん、鋭いね。

まあそんなワケで、ステラたちエルフ族は、お耳が疲れやすい。そ。

だからこそ、こうやって、いつでもお手入れ出来る様にしてる。

おし、そろそろいいかな。

次はね、お耳の中を掃除していく。

そう、耳かき。

人間さんでも、耳かきって、する？

へえ、お耳の汚れは、人間さんも溜まるんだ。

ほ。

成程ね。

あ、片方ずつするから、横向きになって。

（態勢を変える音）

3…お礼の耳かき（夜／聴き手の部屋）2,686文字

（位置／有声音／かなり小声）

（断続的な耳かき音）

でもまさか、こんな事になるとは…。

なにつて、人間界に来て、人間さんに耳かきをするとは思ってなかった。  
うゝん、長く生きてると、なにに出くわすか分からないね。

え？

年齢？

ステラの？

あのさ、そういう繊細な質問、余りしない方がいい。  
そう。

訊かれて困る人も居るから。

ステラ？

33歳だよ。

へ？

うん、年齢は気にしてない。

ん？

なにか引つかかる事でもあった？

そ、じゃあいいけど。

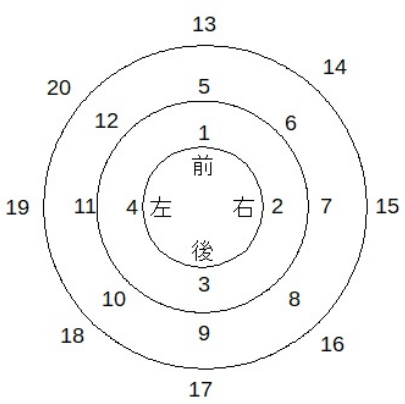
んで〜？

33歳って聞いて、どう思う？

へ？

かわ…、いい？

（慌てる演技）



そ、そっか。

かわ…、いいつか…。

まあね？

エルフは？

整った容姿が多いから？

ステラもその恩恵を受けてる…、的なの？

う、うん。

そんな感じ。

にえへへ…。

(ここまで)

(咳払い) う、うんっ。

で、可愛いのは当然として、人間さんはさ、凄く落ち着いてるよね。そう。

目の前で耳かきしてるのが、エルフなのに。

どうして？

うん…。

うんうん…。

へえ…。

昔から色々と、不思議な体験をしてきたんだ。

その肝の据わり方？

性格？

についてはちよつと気になる。

だけど、助けてもらったのに、勘ぐるのはよくない。

それにステラの直感がこう言ってる。

この人間さんはちよろいから媚びてけえって。ん？

ステラ、なにか気になる事でも言った？  
言っていないよね？

うん、よかった。

そう言う訳で、しばらく人間さんのお世話になろうと思う。  
よろしく。

へ？

困る…？

なんで？

助けてくれたって事は、置いてくれるって事でしょ？

違うの？

マジか…。

（息を吸う音）すう…。

えっ、じゃあなに？

これが終わったら、出て行って？

また空腹で倒れるかもしれないのに？

（語尾セルフエコー）人間さんはそんな人じゃないって、

ステラ信じてる…てる…てる…てる…。  
で。

しばらくここに居てもいい…、よね？

見た感じ独り暮らしっぽいし、彼女も居ない…、違う？

やっぱりね。

こんな優しくて、ちよろ…、正直者の人間さんにお相手が居ないなんて…。  
ステラだったら、放っておかない。

うん。

マジ。

本気と書いてマジ。

もうね。

とことん尽くしちゃう。

朝はチュ〜で見送って、夜はギュ〜で帰りを迎えるの。

どう？

凄く魅力的。

そう思わない？

ね？

こんな綺麗な奥さんが居たら…、最高じゃない？

でしょ？

まあそれはあり得ないんだけど。

当たり前。

だって異種族同士なんだもん。

え、なに？

もしかしてちよつと期待した？

やっぱ人間さん、ちよろいね。

匂わせただけで、直ぐ釣れる。

まさに入れ食い。

(リズミカルに) ちよつろり〜、ちよつろり〜、ちよつろちよつろり〜♪

うん…、分かってる…。

言い過ぎた。

ものすごく反省してる。

だから、お願い。

しばらくここに置いて。

一生のお願い。

ん？

いいの？



やっぱり人間さんはよろ…、優しいね♪

(弦く様に) 言うてエルフの一生って、すっごく長いんだけど…。

ああ、なんでもない。

うん、なんにも言っていない。

おし、じゃあ、そろそろ仕上げ。

このウサギの毛で出来てるポンポンで、細かい汚れを取るよ。

ふわふわ、ふわふわ、ふわ、ふわ、ふわ。

(耳ふー) ふ。

ふわ、ふわ、ふわ、ふわ、ふわ。

(耳ふー) ふ。

もっかいしとこう。

ふわ、ふわ、ふわ、ふわ、ふわ、ふわ。

(耳ふー) ふ。

あい、こっちはおしまい。

次、反対のお耳。

ゴロンして。

(寝返りの音)

(位置二／有声音／かなり小声)

ん。

ゴロン偉い。

え？

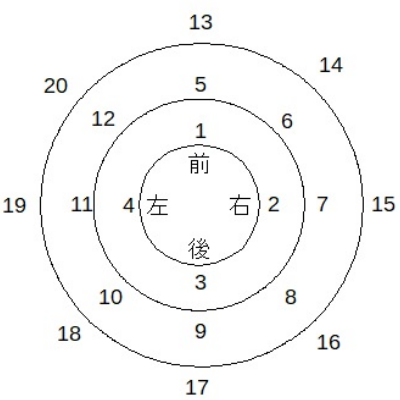
別に子ども扱いしたっていいの。

だってステラは33歳。

人間さんより、ずっと「オトナ」。

だからお子様の人間さんを、甘やかしてもいいの。

(弦く様に) これも作戦。



あつ、ううん。

おウチに置いてもらうためとか、全然そんな事考えてない。そう。

だってステラだよ？

そこまで考えてると思う？

でしょ？

あれ？

なんだか、心が痛む…。

うう…。

え？

続き？

自虐の？

あ、耳かきね。

おゝけゝおゝけゝ。

自虐発言なんてなかったんや…。

せやせや…。

ほなな…、やってこか…。

えゝつと、お耳の汚れゝ、汚れゝ。

おゝ、あるある。

(断続的な耳かき音)

どれどれ…、おゝらよつと！

そおいつ！

はあいっ！

むむう、この魔窟、中々陰しいね。

うん、強敵がいつぱい。

これは倒すの、時間がかかりそう。

せいっ！

ほっ！

とりやつ！

はあはあ…。

手強いね。

こうなったら、根絶やしにするしかない。

はあっ！

え、なに？

いい所なの、とめないで。

じゃあ行くよ…。

そお…、つだから…、なに…？

せ…つかく面白くなってきた…あ…じゃなくて…。

(息を吸う音) す…。

はい。

やめます。

正直ふざけてた。

真面目にやるし、優しくやる。

任せて。

(ウザい演技)

あ、こしよこしよこしよこしよ、こしよこしよこしよこしよ。

あ、こしよこしよこしよこしよ、こしよこしよこしよこしよ。

ああ、かりかり…、かりかり…、あっ、かりかり…、かりかり…。

ああっ、かりかり…、かりかり…、っそい、かりかり…、かりかり…。

(いじまど)

え？

真面目にやってるよ…。

うん。

凄く真剣。

ステラのよどみのない目を見て。

ジュー。

にえへっ。

おっと、素が出ちゃった…。

え、あ、ううん、なんでもない。

それよりさ、今は耳かき中なんだよ。

ふざけてる場合じゃない。

下手したら、怪我する。

でしょ？

だから、そういう心構えで居てもらわないと、困る。

うん、素直なのは、いい事。

ん？

なにか言いたそうな顔してるけど、今は受け付けない。

なんたって、ステラはすごく集中してるんだから。

ふんすっ！

ほら、集中してるステラ、見て。

見てってっ！

あ、そっか。

耳かき中だった。

にえへへ。

(**弦く様に**) ふうう、危うく人間さんのお耳を貫く所だった。

あ、ううん。

気にしないで。

それにしても、またお腹が空いてきちゃったな…。

ねえ人間さん。

このあとさ、もう一回ご飯を食べたいなく、なんて思うんだけど。

んく、確かにさつき食べたばっか。

けどステラはその…、自分で言うのも恥ずかしいけど、食いしん坊だから、直ぐお腹が空いちゃう。

ね、いいでしょ？

ほら、今こうして耳かきしてて体力使ってるからさ、補給しないと。

えく、いいじゃくん。

もく、ケチ。

ちよろ雑魚。

おたんこなす。

あつ、しまつ…。

流石に言い過ぎたよね…。

うん、反省してる…、少し。

ちよつと？

わずかに？

まあなんでもいいじゃん。

で。

ご飯、いい？

にえへへ。

ありがとう♪

んく、今度はなにを食べさせてくれるの？

お楽しみ？

ふくん、じゃあ楽しみにしておく。

じゃあこつちも、とつとと終わらせる。

へ？

いいじゃん。

綺麗になったはずだから終わる。

んで、ご飯にしよう。

うるさい。

つべこべ言つと、耳かき棒がつ刺すよ。

うん。

大人しくなって偉い。

んじゃあゝ、こつちもポンポンで、ふわふわする。

ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふわわゝ。

(耳ふー) ふゝ、ふゝ。

ふわっふわゝ、ふわっふわゝ、ふわっふわゝ、ふわわゝ。

(耳ふー) ふっふっふゝ。

最後にもう一回。

ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふわふわゝ。

(耳ふー) ふゝゝ。

よゝっし、おしまい♪

人間さん、起きていいよ。

よし、ご飯にしよう。

ね？

そうしようっ！

ヤッタっ。

うん、大人しく待ってるっ！

4…お夜食（夜中／聴き手の部屋）2,099文字

（位置19／有声音／やや小声）

むっ！

凄くいい匂いっ！

（嗅ぐのを口で言う）くんくん、くんくんくん。

こ、これは…。

（ステラの足音）

（位置5／有声音／やや小声）

おお、めっちゃ美味しそう。

（位置9／有声音／やや小声）

ねえ、人間さん。

これはなんてお料理？

パス…、タ…？

（位置12／有声音／やや小声）

じゃあ、こっちの飲み物は？

コン…、ソメ…？

ふむ…、どっちも聞いた事がない…。

けど、香りは…、ああ、もう待てないっ！

早く早くっ！

お、もう食べていいの？

（位置5／有声音／やや小声）

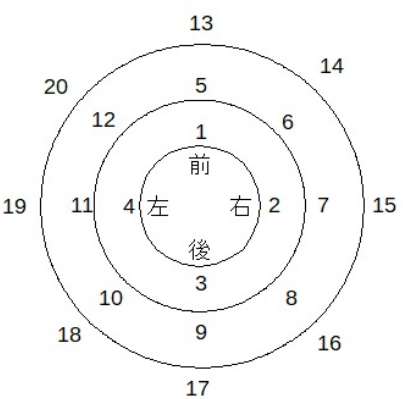
あ、そうだ。

忘れてた。

いただきます。

人間さんの作法だね。

うん、さっき教えてもらった。



ってかさ、食べていい？

うん。

じゃあ、先ずはパスタとやらから…。

**（ガツガツ食べる演技）**

はあむっ、あむっ、ふん、ふん、んっ！？

うん、うん、んんっ、ぷはぁ。

**（二こまで）**

**（興奮気味に）**

これ、凄く美味しいっ！

ピリリと辛いけど、独特の香辛料が効いてる。

初めて食べたけど、これ、好きっ！

え？

ペ…？

ん、なんて？

ペペロンチーノ…？

面白い名前。

人間さんは、お料理が上手なんだね♪

**（二こまで）**

へ？

れいとう…、しょくひん…？

どういう意味？

うん…。

うん…。

へえ…、凍ってるのを、温めるだけでお料理が完成するんだ…。

え、待って。

それってもしかして…、魔法…？



違うの？

そっか…。

てつきり人間さんも、魔法が使えるのかと思った…。

ああ、「人間さんも」って言うのはね、ステラ、魔法が使えるの。

は？

マジもなにも、エルフなんだから、当たり前。

得意なのは風の精霊術。

まあ見ててよ。

(位置の／有声音／やや小声)

ふんっ！

(風の音)

ほっ！

(氷が出来る音)

そお…い…。

(カップに氷が入る音)

(位置の／有声音／やや小声)

どう？

風を操って、大気中の水分から氷を生成。

人間さんの飲み物に、入れてあげたよ。

へ？

(落ち込んだ演技)

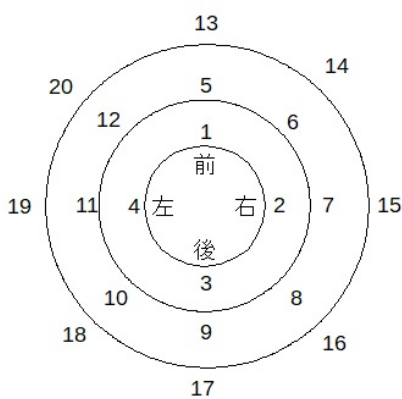
それ、あったかい飲み物なの？

マジか…。

(息を吸う音) すう…。

え…つと…、ゴメン…。

許してくれるの？



(ここまで)

(位置5で左右に揺れながら／有声音／やや小声)

人間さんは、優しい。

ステラ、人間さん好き。

にえへへっ♪

(位置5／有声音／やや小声)

所で人間さん。

ステラがエルフ族だって言っても、余り不思議がらない。

魔法を見ても、怖がりもしない。

それってステラが本当にエルフ族だって、信じてくれてるって事？

へえ。

それにしても、人間さんには分からない所が色々ある。

え？

うん…。

うん…。

あゝ、確かに。

それはお互い同じか。

(位置12／有声音／やや小声)

でもさ、人間さんって、変な人。

見ず知らずのステラを助けてくれたのは、感謝してる。

でももう少し警戒した方がいい。

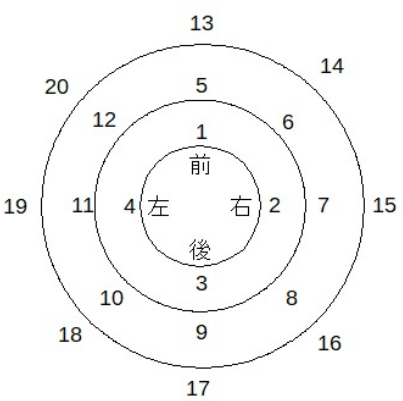
(位置9／有声音／やや小声)

だって、もしステラが嘘を付いてたら、どうするの？

ステラ、実は暗殺者かもしれない。

人間さんの事、襲っちゃうぞ。

(位置5／有声音／やや小声)



なんてね。

へ？

そんな風に見えない？

どういう事？

うん…。

ステラが？

アホっ子？

ん…。

あのさ…、いくらなんでも、言っている事と悪い事がある。

ステラはエルフ族。

人間よりも高貴な存在なんだよ。

口を慎んだ方が、身のため。

いい？

へ？

じゃあ食べるな？

あつ…。

(呼吸する音) すくく。

(位置5で左右に揺れながら／有声音／やや小声)

やだなあ、人間さくん。

助けてもらった恩、ステラは忘れてない。

どっちが偉いとか、今は関係ない。

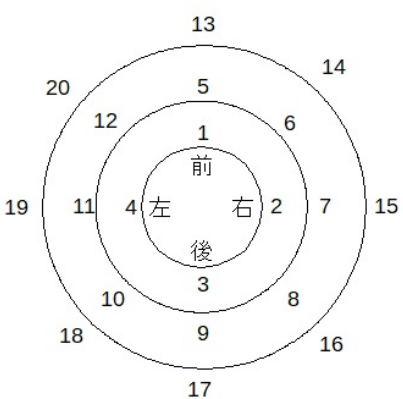
(位置5／有声音／やや小声)

人間さんとステラは、平等。

うん、そう。

平等。

だよな？



(呟く様に) ふう…、ちよろくてよかつた。

あ、そうだ。

こっちの飲み物も飲んでいい？

コン…、ソメ…、だっけ？

すっごくいい香りしてる。

味は…。

(熱いスープを啜る演技) ずずっ…。

んっ！

(位置5で左右に揺れながら／有声音／やや小声)

なにこれ…、え、めっちゃ美味しい…。

こんなに具だくさんなのに…、口の中で喧嘩しない…。

人間さん、やっぱりお料理上手なんだね。

(位置12／有声音／やや小声)

へ？

野菜を煮て、コンソメを入れただけ？

はっは〜ん。

ステラ、完全に理解したよ。

さてはそのコンソメってのが、魔法のアイテムなんだね…。

(位置5／有声音／やや小声)

ん？

なに、それ。

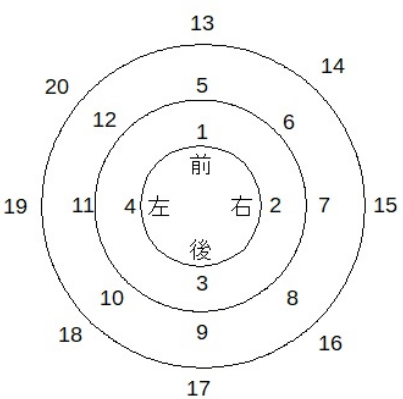
土？

えっ、これがコンソメ？

どう見ても土にしか見えないんだけど…。

人間さんは土も食べるの？

そうじゃない？



うん…。

へえ、美味しい成分を凝縮したのが、コンソメなんだ。  
成程ね。

（コンソメを渡す音）

（匂いを嗅ぐ）くんくん…。

ホントだ。

スープと同じ香り、するつ。

エルフ族の作るお料理はさ、簡素な味付けが多いんだ。

だから、こんなに美味しいもの食べたの、初めて。

人間界に来てよかった。

ん？

人間界に来た目的？

あ、それ…、訊いちゃう？

どうしよっかな。

そんなに知りたい？

そっか。

美味しいお夕飯を二回も振舞ってくれたし、特別に教えてあげる。

ステラはね…。

ナイシヨでエルフの世界を抜け出して、人間界へ遊びに来たっ！

（位置1／無声音／やや小声）

あ、コレ、誰にも話しちゃ駄目だよ…。

二人だけの秘密ね？

（位置5／有声音／やや小声）

さてと…。

根回しはオツケー。

カンペキ。

じゃあ、もう一回確認。

(位置の／有声音／やや小声)

ステラが人間界へ来た目的は？

「遊び」。

そう、遊び…、じゃなくてっ！

秘密っ！

二人だけの秘密って、約束したっ！

あ、そっか。

ここには人間さんとステラしか居ないから、いいのか。

ん、いいのか？

うーん、よく分かんないから、もういいや。

はあ…、人間さんと話していると疲れる。

まったくもう…、ステラの事、からかってるでしょ。

「うん」って、あのね…。

(位置の／有声音／やや小声)

あ、いいの？

あんまり調子に乗ると、風の精霊術で、この部屋ごと吹き飛ばすよ？

ねえ、いいの？

へ？

それだと、ステラの居場所もなくなる？

おお…、その通りだ…。

ぐぬぬ。

じゃあやめとく。

仕方なくやめとく。

仕方なくね。

ふう…、ご馳走様〜。

(眠そうな演技)

(伸びをしながら) はあゝ、今日は散々だったなゝ。  
くたくた…。

それにご飯食べたなら眠たくなってきた…。

ねえ人間さん、ステラ、寝ちゃってもいい？

ありがと。

え？

ベッド？

ああ、あれの事。

なぬ？

ベッドとやら、使っていいの？

(ステラがベッドまで移動する足音)

(位置16／有声音／小声)

そう言われても、こんなふかふかので眠れるかな？

エルフの寝床は、だいたい硬い床だから。

(位置16／有声音／小声から段々かなり小声へ)

言うて人間さんの世界で、油断など許されない訳で。

そんな気を緩める事なんて…、あるはずが…、すや…。

(11まで)

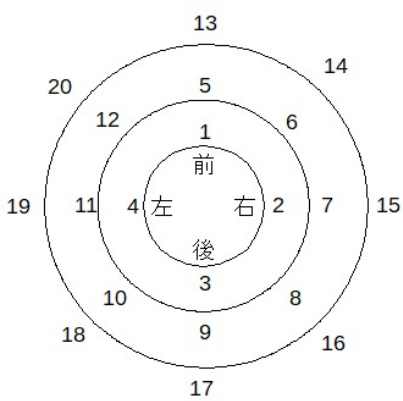
5…翌朝 (朝／聴き手の部屋) 1,112文字

(位置14／有声音／やや小声)

(寝言からの起床)

にえへへ…、もう食べられない…。

本当に無理だって…。



無理って言つとるやろがいつ！

んあつ…。

なんだ、夢か…。

(伸びをする演技) んん…、ふわあ…、んん…。

ぷはつ。

(ステラがベッドから降りる音)

(位置5／有声音／眠たそうにやや小声)

人間さん、おはよ。

うん、よく寝た。

そんでもって、お腹空いた。

なにか食べたい。

人間さんが食べてるそれ、なに？

食パン？

つてことはパンの一種？

へえ、食べやすい様に予め切ったパンねえ…。

成程…。

昨日食べたカップラーメンも、冷凍食品も、

人間さんたちは、お料理にあまり時間をかけない。

ああ、ううん。

悪い意味じゃない。

便利になるのはいい事。

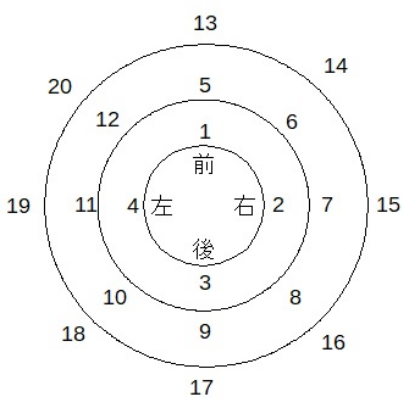
ステラはそう思ってる。

便利になる…、つまりそれは進歩しているという事。

生きとし生けるもの、進歩しないと衰退するだけ。

種の存続がかかっている。

便利は、いい事。





(力強く) うんっ。

(位置の／有声音)

え、なに？

これ、食べていいの？

にえへ。

じゃあステラも、進歩のために頂くっ！

いただきます。

(食パンを食べる演技) はんっ、んんっ！？

(噛んで飲み込む演技) はむ、あむ、あむ…、うんっ。

(位置／有声音)

(興奮気味に)

人間さん、なに、これっ！

噛んだ瞬間、サクツとしたっ！

うん…。

うんうん…。

へえ、食べる前に焼いてるんだ？

あれ？

パンって普通焼いて作るよね？

それを更に焼いてるの？

ほう。

ほうほう。

成程。

表面だけ焼いて、食感を楽しむんだ。

うんっ！

凄く美味しいっ！

こんなに美味しいパンは初めてっ。

(ここまで)

(位置の／有声音)

所で人間さん。

このあとの予定は？

かい…、しゃ？

しゅっ…、きん？

あ、ステラ知ってる。

人間さんたちは働き者。

大勢で協力して、お仕事をする。

どう？

詳しいでしょ？

にえへへ。

そう直球に言われると、照れますなあ。

でさ、そういう人たちの事を、社畜…、そう呼ぶんでしょ？  
やっぱりステラ、詳しい。

(自慢気に) ふんっ！

(位置の／有声音)

え？

社畜は違う？

ふくん、そうなんだ。

まあいいじゃん。

あ、そうだ。

ステラも会社とやらに行ってみたい♪

ええ、いいでしょ。

ステラがエルフ族だって、バレない様に変装していくから。  
そうだな。

あ、あれっ！

人間さんの正装。

なんて言うんだっけ？

そう、スーツっ！

今日一日だけ、貸して欲しい。

そんでもって、ステラを会社へ連れてって？

スーツはブカブカでも、気にしない。

人間さんはもう一着くらい、スーツ持ってるでしょ？

ほらね、予想通り。

ステラ、冴えてる。

で、どう？

会社、行ってもいいよね？

大人しくしてるから。

いいでしょって、ね。

にえへ。

ヤッタ。

じゃあ早く朝ご飯、食べちゃおう。

え？

ゆっくりでいい？

うん、分かった。

ゆっくり食べる。

(急いで食べる演技) はむっ、あむあむ、はむっ、あむあむあむ。

(喉に詰まらせる演技) うっ…、んんっ…、ぷはっ…。

危ない、喉に詰まった。

出勤前に命を落とす所だった。

成程。

人間さんたちが仕事に命をかけてる意味、分かった気がする。

へ？

そうじゃない？

そうなんだ。

それにしても会社、楽しみ。

うん。

今度こそゆっくり食べる。

大丈夫。

6…ステラと出勤（午前／聴き手の職場）3,892文字

（二人の足音）

（位置19／有声音）

おお、これが人間さんの職場…。

なんだかほかの人間さんたちが、たくさん居る。

それに見慣れない物が、あちこちに置いてある。

ねえねえ、この箱は、なに？

ばそこん？

じゃあじゃあ、この四角い光ってる板は？

もにたー？

へえ、パソコンさんとモニターさんは、二つでお友達なんだ。

勉強になった。

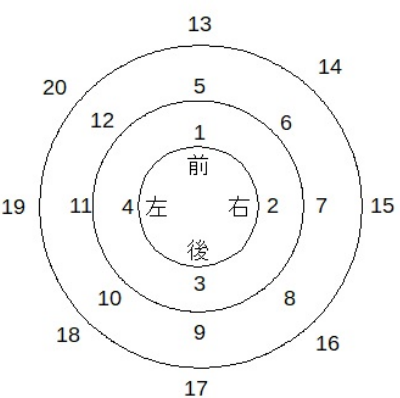
（位置9／有声音）

あ、ここが人間さんの席？

んん？

随分と隅っこなんだね。

入口から遠いし、それになんだか薄暗い。



それが落ち着く？

ふ〜ん、そういうものなんだ。

え、なに？

パソコンさんのキドウ？

ステラがやっていいの？

マジ？

壊れたりしない？

そっか、じゃあ安心。

で、どうすればいい？

(位置12／有声音／やや小声)

ああ、この丸くて大きいヤツね。

押すよ？

いい？

本当に押すよ？

そいつ！

(電源ボタンの音)

(位置9／有声音／やや小声)

ひっ！

なんか光って、ブーンって鳴り出した。

壊れた？

これ壊れたね？

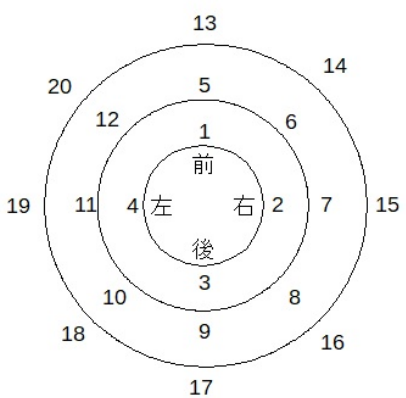
ヤバいんじゃない？

え？

正常？

そっか、これが正常。

そっか…。



おう、モニターさんとやらに、なにか出てきた。  
ここは人間さんがやるんだ？

(位置二／有声音)

ばすわーど？

うん…。

うん…。

へえ、秘密の暗号って事ね。

成程、それは教えちゃいけないヤツ。

ステラにも分かる。

お、なんだかたくさん、絵が出てきた。

読めないけど、色んな情報が詰まってそうっ！

早速お仕事？

うん、分かった。

ステラは横で、大人しく見てる。

大丈夫。

任せて。

(しばらくキーボードを打つ音)

(位置二／有声音／かなり小声)

(一人で遊んでいる演技／ノってきて徐々に声が大きく)

むっ、オークの群れが、里に迫ってるっ。

とりやつ！

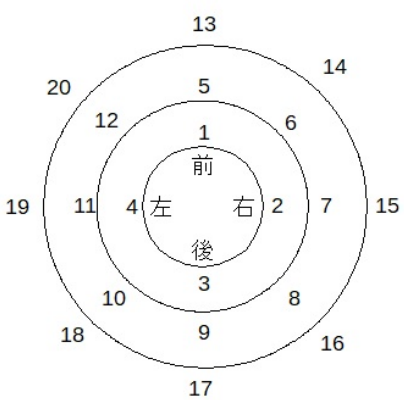
ヒューン、ズドドドっ、バチンっ！

ふっ、風の精霊術の前では、醜いオークの相手などたやすい。

むむっ、今度はゴ布林っ！

そおいつ！

ヒュン、ヒュン、シュ、ズドゥンっ！



流石ステラ。

弓矢は百発百中。

ゴブリンの全滅を確認。

ふう〜、今日も里に平穏が訪れた。

ふふっ、はっはっは、あ〜っはっはっはっ！

(ここまで)

(位置 二／有声音／小声)

え？

うるさい？

ステラなにか言ってた？

うつそ…。

それマジ？

そうなんだ。

ああ、ゴメン。

だってやる事ないし、暇。

ん〜、確かに会社に来たいって言ったのは、ステラ。

でもまさか、ここまで退屈だとは思ってなかった。

その点、人間さんは凄い。

つまらなそうな事を、文句も言わずにやってる。

そう、凄い。

ねえ人間さん。

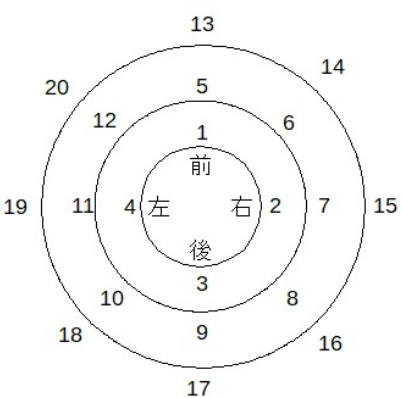
なにかステラにも、出来る事、ない？

たくさん助けてもらったから、恩を返したい。

ない？

またまたあ。

本当はあるんでしょう？



あ、ないんだ。

本当にないんだ。

マジか。

(息を吸う音) すうう。

人間さん…、とても言いにくいんだけど…、帰りたい…。

いいよって。

え…と…、その…。

帰り方…、分からん…。

それでその…、どうしたらいい？

待つ？

やっぱ待つしかないんだ。

デスヨネ。

じゃあさ、なにか手伝いたい。

ステラにも出来そうな事、ホントはあるんでしょう？

あ、ホントにない。

ないんだ。

そっか…。

え？

肩の…、マッサージ？

どうやるの？

トントントンって叩くだけ？

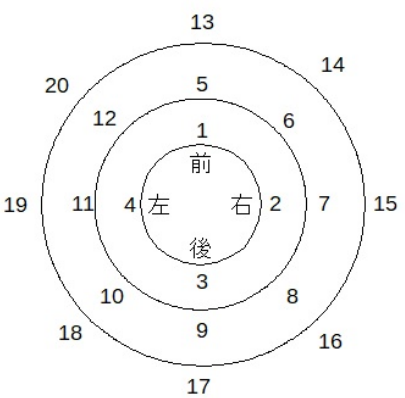
ほう。

(位置2から6へ移動しながら／有声音／小声)

そんなんでお手伝いになるなら、喜んでする。

(位置6／有声音／小声)

じゃあ早速やってみる。





(しばらく肩叩きの音)

(ウザい演技)

トントントン…、トントントン…。

トントントン…、トントントン…。

あ、トントントン…、あ、トントントン…。

ああ、トントントン…、あそれ、トントントン…。

(ここまで)

(位置 8 / 有声音 / 小声)

あ、言わないで。

分かってる。

ウザいって言うんでしょ。

ほらね。

え？

あ、はい。

やめる。

もう二度としない。

普通にやる。

(位置 6 / 有声音 / 小声)

トントントン…、トントントン…。

トントントン…、トントントン…。

トントン…、トントントン…、ねえ、普通ってなにやっ？

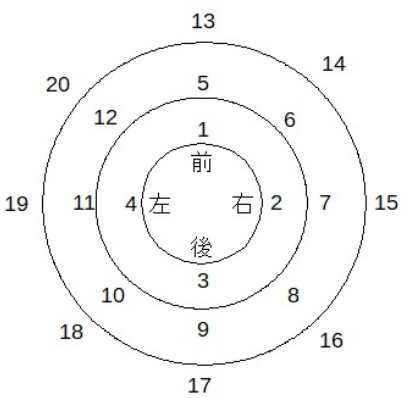
(位置 10 / 有声音 / 小声)

(まくしたてる様に)

その基準はあるの？

あるなら誰が決めたの？

ねえ、教えて。



ステラが納得出来る様に教えて。

(二二二まで)

(位置 6 / 有声音 / 小声)

へ？

自由にやっていい？

なくんだ、それなら最初からそう言ってよ、もう。

じゃあ好きな様にやる。

…。

んん…。

ねえ、好きな様になって、どうすればいいの？

いざそう言われると、分かんないや…。

もう、面倒とか言わないで。

ステラは凄く真剣。

だから暇々、じゃなくて、持て余したく、でもない。

えくつと、まあなんでもいいじゃん。

要するに、お世話になった人間さんに、少しでも恩返ししたいと思ってる。

気持ち…、そう、気持ちが大事って事。

(自慢気に) ふんっ♪

え？

お話しながらトントンしていいの？

それだと、お仕事の邪魔にならない？

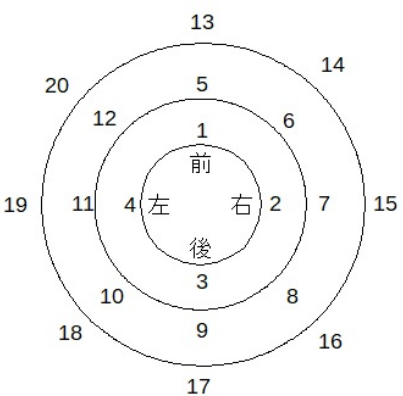
そっか、ならそうする♪

(しばらく肩叩きの音)

えくつと、じゃあさ…、人間さんの事、もっと知りたい。

人間さんは、彼女いない。

それっぽい人の影もない。



恋とか、しないの？

うん…。

うん…。

へえ、仕事してた方がいい…、つか。

それって、生きてて楽しい？

ああ違うの。

煽ってるんじゃないくて、真剣に。

ステラに言われても嬉しくないかもだけど、人間さんは凄く優しい。

それは普通の優しいじゃない。

正義感とか、道徳心とか、そういうものを感じる。

そこにはなにか、特別な思いがある。

違う？

へ、なんもないん？

あつ…、そう…。

ないんだ…。

ホントにないの？

へえ…、なるほど？

あ、ううん。

いいの。

今言った事は忘れて？

お願いだから忘れて？

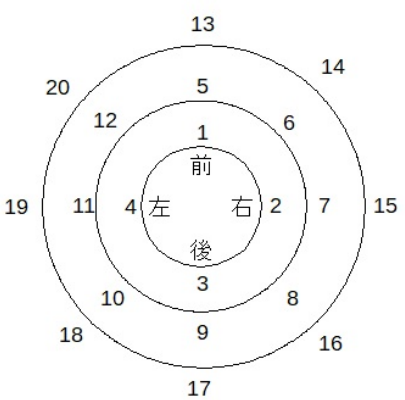
記憶の海からからポーンと弾き出して？

ほら。

ほくら。

(位置∞／有声音／小声)

出た？



うん、偉い。

別に、照れなくていいのに。

え？

照れてない？

そうなの？

まあいいじゃない。

人間さんはお子様だから、いい事をしたら褒める。

これ、大事。

人間さんだって、褒められて嫌じゃないでしょ？

ほらね。

だからいいの。

言う事聞けて、偉い偉い。

へ？

お手伝い出来て偉い？

ステラが？

あのさ、これくらい、ステラにも出来る。

バカにしないで。

だって、ただ肩をトントンしてるだけ。

こんな事で褒められても、ステラは喜ばない。

その証拠に、ステラの目を見て。

(位置5／有声音／小声)

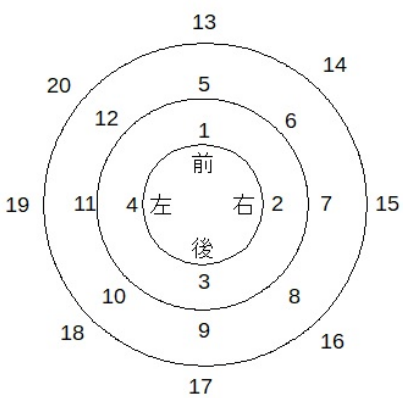
ジュー。

にえへっ。

(位置8／有声音／小声)

ああいけない。

喜んでるのがバレちゃう…。



いい、人間さん。

今のはナシで。

そう、なにも見てない。

(位置 10 / 有声音 / 小声)

確認ね？

ステラは？

喜んで？

「いる」っ！

そうっ！

メタメタのメタに喜んでいる…、って、あのナ。

さっきのはナシって言ったよね？

ステラは喜んでない、いい？

じゃあ改めて確認ね。

ステラは褒められたくらいではよろこばっ。

ないっ！

は…い、正解…。

これくらいでは動じない。

え？

マッサージが上手？

ふう…ん…。

にえへへ…。

あ、しまっ。

(息を吸う音) す…。

べ、別に嬉しくない。

ホントだもん。

なんでニヤニヤしてるの？

もう、人間さんの意地悪。  
べえ〜だ。

まったくもう…。

ステラを怒らせると、酷い目に遭うって、知らないんだ。

え、知りたい？

あゝ、えつと…。

知りたいんだ？

へえ…。

(位置2／無声音／囁き)

ねえ、ホントに知りたい？

マジ？

あゝ、マジなんだ…。

(位置6／有声音／かなり小聲)

(考え込むように)

んゝ。

アレがああなって、コレがこう…。

んんゝゝ。

はっはゝん、そうそう、そう言う事な訳。

おっけゝ、おっけゝ。

(ここまで)

(位置8／有声音／小聲)

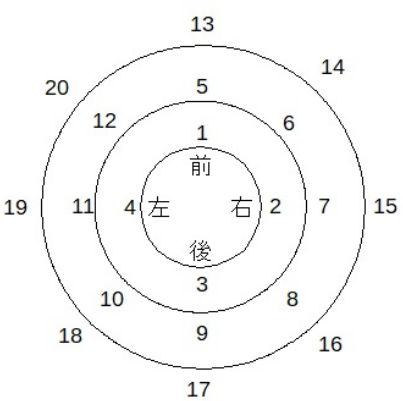
(咳払い) うゝ、うんっ。

じゃあいいよ。

ステラを怒らせると、どうなるか教えてあげる。

それはね…。

なんと…。



ステラの風の精霊術が暴走して、この会社ごと消し飛んじゃうんだ。  
どう、怖いでしょ？

え？

そうして…、欲しい？

え…と…、マジ？

(位置10／有声音／小声)

(冗談でしょという感じで)

いやいやいや。

いくらなんでも、会社ないなったら困るでしょ。

だってお仕事出来なくなるんだよ、そんなのダメ…。

(二二二まで)

え？

その方がせいせいする？

おうふ…、人間さん。

優しい一面を持つてるけど、実は心の闇、深そう…。

ん…、まあいいんじゃないかな。

人間さんには、人間さんの個性がある。

ステラにも、ステラらしくて可愛い所がある。

でしょ？

あれ、なんで言いよごんでるん？

お？

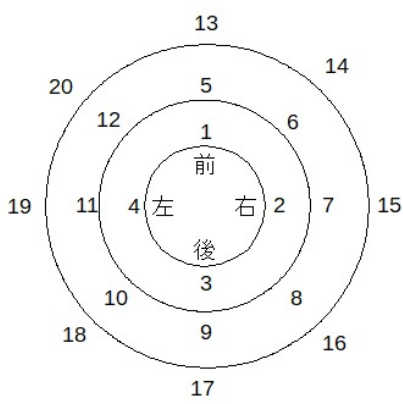
(語気強く) あるよね？

うん、よかった。

(位置6／有声音／小声)

で、続きね。

そういう変わってる所もあって、似てる所もあって、だからこそ面白い。



ステラはそう思う。

だから人間さんの心の闇、どんなに深くても、ステラは受け入れる。任せて。

人間さんは、ステラを救ってくれた。

それは事実。

だからステラは、人間さんを信用してる。

それに、エルフ族は誠実な種族。

恩を仇で返す様な真似はしない。

だから会社も消し飛ばさない。

なんやかんや言っても、仕事が出来なくなったら、お金も手に入らない。違う？

やっぱりね。

だったら物騒な事は、しない。

安心して？

(自慢気に) ふふんっ。

人間さんは、見る目がある。

ステラを信じてくれる。

ちよろ…、じゃなくて、素直な子。

そう、素直で優しい。

ステラは、褒めて伸ばすのが得意。

だから、いい所はどんどん褒めていく。

ほか、褒めて欲しい事、ない？

えゝ、ないの？

んゝ、じゃあゝ。

今日もお仕事して偉い。

この四角くてデコボコしたの、なんて言うの？



キーボード？

ふむ…。

キーボードさんをカタカタすると、人間さんたちの文字が出てくる。

凄い。

え、これは人間さんの能力じゃないんだ？

うん…。

うん…。

へえ、パソコンさんの能力…。

パソコンさん、無口だけど、偉い。

(褒めた事を満足した様に) うんうん。

(位置ㄣ／有声音／小声)

所で人間さん。

そろそろお腹、空いてきてない？

え、まだ十時？

お昼には早いのか？

そっか…、そうなんだ。

んゝ、でもでも、ステラはお腹空いちゃってるゝ、的な？

(位置ㄣからㄣへ移動しながら／有声音／小声)

なにか食べたいなく、なんて思ってみたり？

んん…。

(位置ㄣ／有声音／小声)

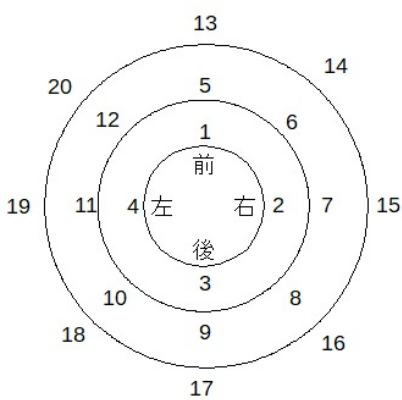
(か細い声でふざけながら)

お願いだよ人間さん…。

ステラはお腹ぺこぺこのぺこなんだよ…。

あ、ほら。

空腹で目の前が暗くなってきた…。



このままだとマズい。

優しい人間さん、こんなステラを、放っておいていいの？

(棒読み) あゝ、もうダメだゝ、ふわりゝ、ふわりゝ。

(ここまで)

(素に戻って)

ねえ、白けた目で見ないで。

お腹が空いた。

なにか食べさせて。

お願い。

(ここまで)

(引き出しから携帯食料を取り出す音)

(肩叩き音終わり)

(位置ゐ／有声音／小声)

ん？

ナニコレ？

人間さんの、非常食？

こんな小さいの、やだ。

お腹、膨れない。

もっとたくさん食べたい。

ほら、昨日みたいなカップラーメンとか、ないの？

ぶう、ないんだ。

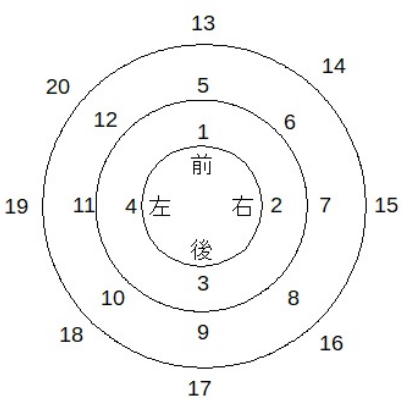
へ？

じゃあ食べるなって…。

(申し訳なやそうに)

あゝ、嘘です。

これで満足です。



もう文句言わないので。

はい、いただきます。

(ここまで)

(携帯食料を食べる演技) はむっ、ふん、あむ、むん…。

んっ！

これ、美味しいっ！

しっとりしてるのに、噛んだ瞬間はサクツとして、新食覚っ！

でもなんか…、うっ、喉に詰まりそう…。

ああ、お茶、ありがと。

(お茶を飲む演技) んっ、んっ、んっ、ぷはっ。

ふう…、落ち着いた…。

ん、貰っておいてなんだけど、物足りない。

もっと食べたい。

え？

もう、ない？

マジか…。

(息を吸う音) すっ。

うう…、じゃあ、人間さんのお昼ご飯まで我慢する。

任せて。

我慢出来るので。

(自慢気に) えっへん。

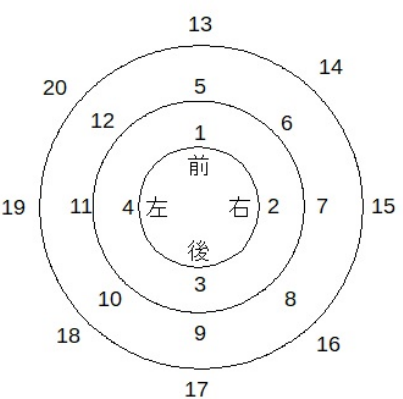
…。

(位置ヤ／有声音／かなり小声)

(申し訳なさそうに)

ねえ、お昼、まだ？

あ、はい。



待ちます。

(ここまで)

7..ステラと帰宅(夜／聴き手の部屋)1,897文字

(位置18／有声音)

ふう、お仕事もお夕飯も済んで、くたくただあ。  
人間さんも疲れたでしょ？

じゃあ今日も、お耳のケア、する？

うん、いいよ。

今日はお耳をマッサージする。

結構気持ちいい。

ほら早く、こーこ、座って？

(位置9／有声音／かなり小声)

じゃあ昨日も使った精油を手にとって…。

これでお耳をマッサージする。

(しばらくマッサージ音)

(位置5／有声音／かなり小声)

いやあ、今日はいっぱい働いて疲れたね。

それにお夕飯もたくさん食べて、満腹だ。

え？

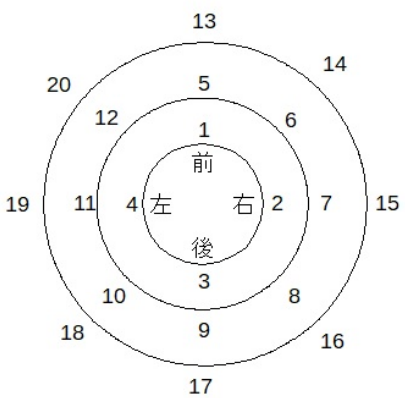
ああ、確かに。

ステラはお仕事を、ただ見てただけ。

とても暇だったっ！

なのに人間さんは凄い。

黙々とお仕事をしてて、感心した。



よくあんなのを、数時間も続けられる。

だってひたすらキーボードさんを、カタカタしてただけ。

あんなのステラだったら、耐えられない。

直ぐに飽きるか、お腹が減って投げ出すと思う。

だから人間さんは偉い、偉い。

(位置二／有声音／やや小声)  
(興奮気味に)

そういえば人間さん。

さつき食べた、お好み焼き？

っというのは、とても美味しかったっ！

お野菜がいくつぱい入ってて、ちゃんとお肉もあつたっ！

甘辛いタレがこれまた絶妙に合ってて、十枚も食べちゃった♪

(二二二まで)

人間さんは、三枚くらいだっけ？

あれで足りるの？

へ？

ステラのために、多くくれた？

(位置五／有声音／やや小声)

(うっとりといった感じで)

そっか。

やっぱ人間さんは優しい。

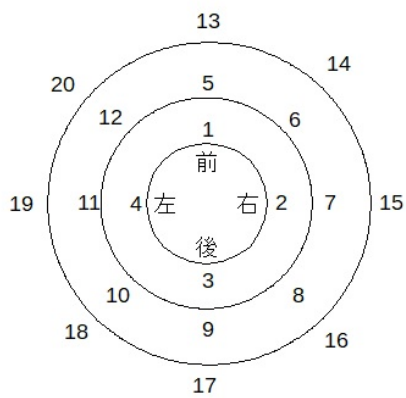
なんかその…、上手く言えないけど…、ステラ、人間さんの事、好きかも…。

うん、そう。

(位置五から七へ移動しながら／有声音／やや小声)

愛の方の好き…。

(二二二まで)



(位置)／有声音／やや小聲)

(我に返った様に)

あ、やっぱナシ。

今のナシで。

異種族同士の恋愛なんて、あり得ない。

だから忘れてもろて。

いい？

ホント？

じゃあ確認。

(位置)から5へ移動しながら／有声音／やや小聲)

ステラは人間さんを？

(位置)／有声音／やや小聲)

「好き」。

そう、好きっ！

もうね、美味しいものをたくさんくれるし、とても親切だし、サイコーっ。

んん…。

ねえ…、あのさ…、忘れてって言ったよね…。

なんで覚えてるん？

って、簡単に記憶を消せるはずないか…。

うん、風の精霊術は数あれど、記憶を操作する術(すべ)はない。

あー、ダークエルフの闇魔法ならあるいは…。

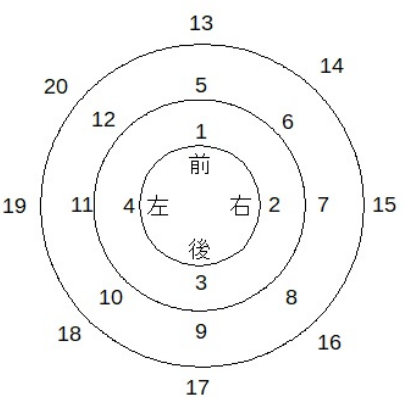
でも人間界にダークエルフなんて居ないだろうし、考えるだけ無駄か…。

ふむ…。

一旦落ち着こ？

はい、深呼吸して…。

(深呼吸) す〜ふ〜、す〜ふ〜、す〜ふ〜、す〜ふ〜。



おし。

じゃあもっかい確認ね。

(位置5から2へ移動しながら／有声音／やや小聲)

ステラは人間さんを？

(位置2／有声音／やや小聲)

す…？

き…？

じゃ…？

ない事もない。

あゝい、せいかしい！

うう…。

あの…、建前だけでも、忘れた事にして欲しい。

異種族で惹かれ合ってるだなんて知れたら、ステラ、追放されちゃう。

え？

(位置2から5へ移動しながら／有声音／やや小聲)

惹かれ「合って」はない？

(位置5／有声音／やや小聲)

あゝ、そうなの？

人間さんは、ステラの事、好きじゃないん？

マジか…。

(息を吸う音) す…。

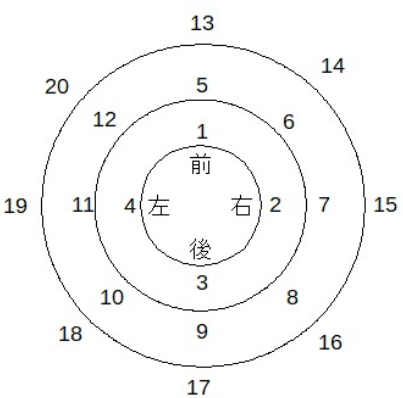
え、じゃあなに？

ステラの勘違い？

だってさ、こんなにももてなしてくれるって事は、そういう事じゃないの？

あ、勘違い。

全部ステラの思い過ごし。



ほっほ。

成程。

とほほお…。

え…と…、今後ステラを好きになる可能性もナシ？

あゝ、つね、そうね。

聞くんじゃなかったね。

しよぼん。

はっ！

ちよつと待って？

という事はつまり、ステラはいつ追い出されてもおかしくないって事っ！？

おうふ、やっぱそうなんだ…。

(反発するように)

あ、いいんですか？

ステラがその辺で、野垂れ死んでもいいんですか？

そうになったらアレ。

え…つと、そう。

異種族間保護義務違反(いしゅぞくかんほごぎむいはん)にあたる。

ホント。

これはね、違反したら酷い目に遭う。

嘘じゃない。

ホントだってば。

ほら、ステラの真剣な目を見て。

(二つまで)

ジ…。

にえへ…。

ああ、いけない。



んん…。

嘘です。

今テキトーに作りました、はい。

(位置「／有声音／やや小声」)

(訴えかける様に)

え〜、だってさ、聞いて？

人間さんに見捨てられたら、ステラ、もうおしまいなんだよ。

食べていく術(すべ)もない。

つまり待ち受けているのは…、死っ！

デデーン。

いいの？

ステラ、死んじやう。

いいの？

(ここまで)

(位置「から」へ移動しながら／有声音／やや小声)

人間さんには、そんな残酷な決断、出来ない。

(位置「／有声音／やや小声」)

ほ〜ら。

段々ステラを放っておけなくな〜る。

ステラを保護したくな〜る。

どう？

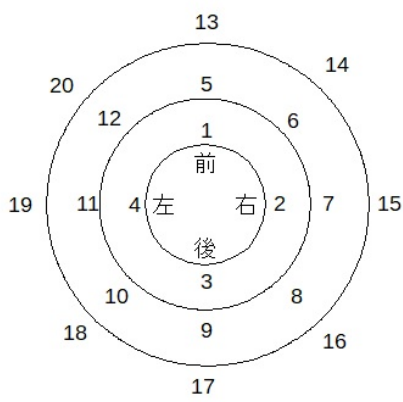
いいのっ？

あれ？

今仕方なくって言わなかった？

んん？

ホントお？



ふむ。

まあいいや。

じゃあしばらくは置いてくれるんだね？

ありがとう♪

そういえば人間さん。

明日はお仕事お休み、そう言ってたよね？

じゃあさ、お願いがある。

ステラ、街で食べ歩き、したい。

とことん人間界を、遊び尽くしたい。

ねえ、ダメ？

いいの？

(位置5で左右に揺れながら／有声音／やや小声)

にえへ。

優しい人間さん、大好き♪

(耳マッサージ音終わり)

(お腹が鳴る音)

(位置5／有声音／やや小声)

うっ…。

想像したら、お腹空いちやった…。

あのくさ、人間さん。

今日もお夜食…、ない？

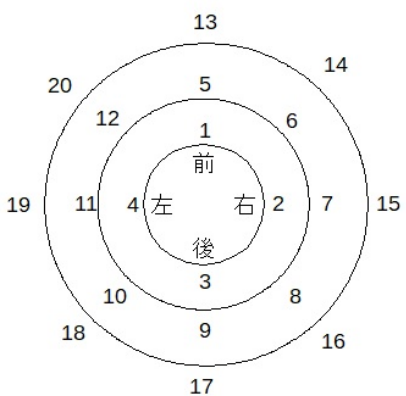
あったら嬉しい。

あるの？

にえへへ。

流石は人間さん。

気が利く。



で、お夜食、なにをくれるの？  
分かった。

楽しみにしておく。

あ、そうだ。

今日はステラもお手伝い、したい。

そう。

少しでも人間さんの、役に立ちたい。

それがステラに出来る、精いっぱいのお礼。

助けてくれた人間さんに、失礼があっちゃいけない。

と言う事で、お夜食の準備、行く？

にえへへ♪

(位置19／有声音／やや小声)

お夜食、楽しみ♪

おっやつしよく♪

おっやつしよく♪

